

浦和ルーテル教会

Urawa Lutheran Church

正会員 ○村上晶子*

○ MURAKAMI Akiko*

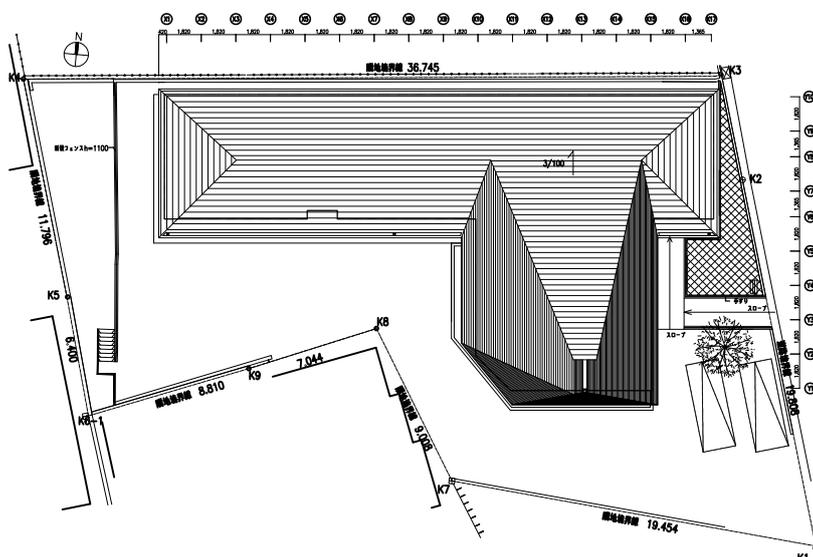
* 明星大学理工学部総合理工学科、教授・博士（工学）
／村上晶子アトリエ&パートナーズ代表

* Prof. Dept of Architecture, Meisei Univ. Dr Eng.
/ Principal Akiko Murakami Atelier & Partners



□浦和ルーテル教会

ルーテル教会は、伝統と歴史のあるプロテスタント教会である。16世紀始め、マルティン・ルターは、当時の教会が正しい福音信仰に立ち戻ることを聖書に基づき訴えた。その基本は宗教改革の三大原理「聖書のみ、恵のみ、信仰のみ」である。日本における伝道はアメリカの宣教師によって始まり、北欧系、ドイツ系が加わり、第二次世界大戦中の日本基督教団時代を経て、現在に至る。当教会は、埼玉県さいたま市の浦和ルーテル学院（小・中・高等学校）に隣接した教会であったことから、当初設計は学院の礼拝堂の機能も視野に入れて始まった。しかし、東日本大震災を機に学院の耐震改修検討により移転決定となり、当教会も移転か否かの選択も含めた立替えプログラムの試行を求められた。設計期間は9年に及んだが、最終的に、この地に教会単独で残る選択となり、素朴で家庭的な会堂空間を目指すことになった。



配置図 S=1:400

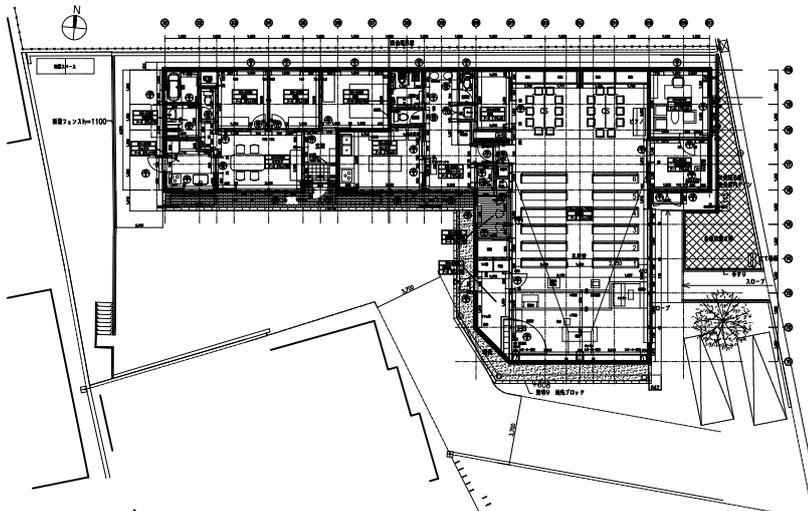
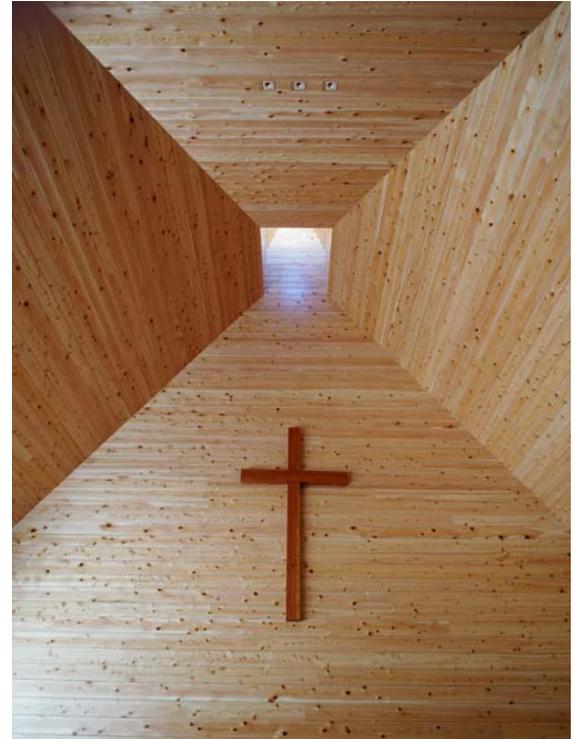
所在地 : さいたま市駒場1-28-12
 主な用途 : 教会・牧師館
 敷地面積 : 720㎡
 建築面積 : 260㎡
 延床面積 : 260㎡
 キーワード : ルーテル、満たされた光、素材

Location : 1-28-12Komaba Saitama-shi
 Main Use : Church-Lutheran
 Site Area : 720㎡
 Building Floor Area : 260㎡
 Total Floor Area : 260㎡
 Keywords : lutheran, filled with light, materials

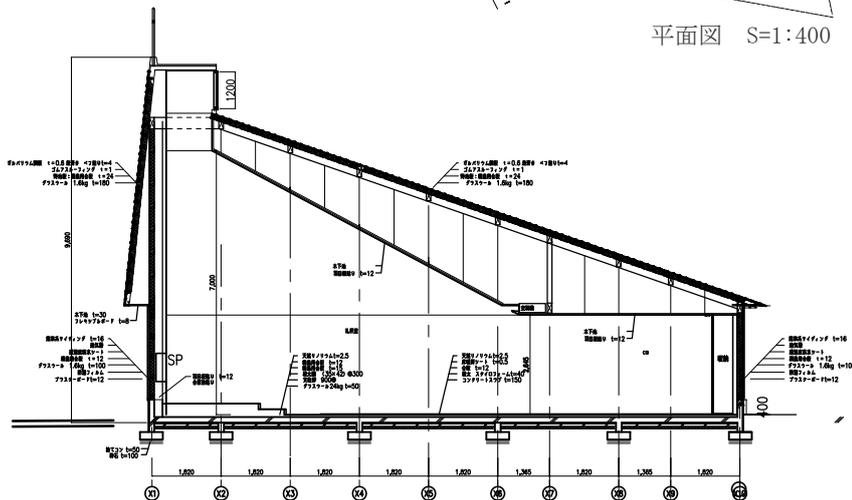
□小さなプロテスタント会堂の光環境

30名ほどの小さい教会である。厳しいコスト制約の中での会堂構造は木造大断面構法を選択した。内壁の素材にはサワラを選択したが、材の節有りを良しとすることでコスト管理を行った。ルーテル教会の特徴である大きな木の十字架と会堂のベンチは旧会堂からリニューアルして移設している。

プロテスタント会堂空間の特徴として、安定した光環境の創出を行うことを第一に考えた。頂部の光を高窓から反射させることで、変化の少ない柔らかい光環境を十字架上に溜めている。また、敷居の低い教会を目指して、会堂での活動が道行く人々に雰囲気が感じられるようにも設けている。



平面図 S=1:400



断面図 S=1:200

